

南会津 のうりんニュース



今月の写真：「初冬」

先日、館岩で「裁ちそば」を体験する機会がありました。全国でも珍しいそばの食べ方と知られる「裁ちそば」は、そば粉100%で打ち、伸ばした生地を何枚にも重ね、布を裁つように切るそばです。熟練の講師がそばを裁つさまは、まさに伝統の技そのものです。

表紙写真は、下郷町の観音沼森林公園です。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・ 青柳区が、東北農政局長賞を受賞!!
 - ・ 「田んぼの学校」収穫感謝祭!!
 - ・ 南会津地方の「そば」を意見交換
南会津地方遊休農地活用推進大会を開催! ほか
- この人を知りたい
星 安晴さん 南会津町館岩
- 集落営農情報
南会津地域集落営農推進担当者会議を開催
- 今月のコラム
南会津地方はいいところがいっぱい!

平成18年12月13日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

青柳区が、東北農政局長賞を受賞!! (豊かなむらづくり全国表彰事業)



東北農政局長を囲んでの記念写真

去る10月20日に、平成18年度豊かなむらづくり全国表彰事業東北ブロック表彰式が仙台市で行われ、南会津町青柳区の馬場和裕区長、馬場一久会計が出席し、東北農政局長賞を受賞しました。

また、11月18日には、青柳生活改善センターにおいて、区住民29名、来賓10名の参加により盛大な受賞祝賀会が開催されました。

青柳区は総世帯数40戸、農家数28戸、耕地面積15haと小規模な集落ですが、歴史的文化遺産である久川城跡の県史跡指定を契機に、子供から大人まで世代を超えた連携活動のもと、「今あるもの、今できること」を合い言葉にして、地域の自然・歴史・文化を活かした多様で自主的な活動を展開してきました。

主な活動として、農業面における水稻直播栽培の導入や環境にやさしい米づくりの実践、遊休農地を活用したそばのオーナー制度による都市との交流活動の拡大、さらに、生活面における久川城太鼓保存会による地域の文化・交流活動の活性化等が挙げられます。

この度の受賞は、平成17年度福島県豊かなむらづくり顕彰における県知事賞受賞につづく快挙で、区住民の喜びと団結力を一層高めるとともに、今後のむらづくりへの取り組みをさらに充実・発展させる上での大きなエネルギーとなりました。

さらに、その青柳区の主催による「青柳新そば祭り」が11月19日、青柳生活改善センターで開催されました。

青柳区の「そばの会」(代表：森和平さん)が遊休農地の有効活用を目的に始めた「そばオーナー制度」が発端で、1年目は少数の参加者でスタートしたこの祭りも、5年目を迎えた今年は首都圏をはじめ会津若松市、柳津町、田島地域など地域外からの参加者も増え、25名程の来客で盛況となりました。当日は、そばオーナーでもあるプロの3名がそば打ちを行い、来客者は3者3様のそばの味を楽しみながら交流を深めました。

(南会津町伊南総合支所、農業普及部)

「田んぼの学校」収穫感謝祭!!

去る10月29日田島第二小学校において、収穫感謝祭が開催され、『田んぼの学校』で収穫された餅米を使って餅つきが行われました。

当日は晴天に恵まれたため、全校児童・保護者が中心となってついた餅を、汁、あんこ、きなこ、納豆な

(2ページに続く)

(1ページから続く)



どこにからめ、青空の下、みんなで食べました。なかには、餅をついた後でお腹が減っているのか、何度もお代わりをする児童もいました。

また、午後には学習発表会も開かれ、5年生は、段ボールで足踏み脱穀機を作るなどして、『田んぼの学校』の活動を劇にまとめ発表しました。(農村整備部)

南会津地方の「そば」を意見交換

南会津地方遊休農地活用推進大会を開催

去る11月16日に南会津町「御蔵入の里 会津山村道場」を会場に南会津・下郷・只見3町の農業者、建設業者、農協、町関係者など100名参加で標記大会が開催されました。

午前の部は主催者の星栄美氏(南会津地方農業委員会連合会長)及び鈴木伸司(南会津農林事務所長)から挨拶後、事務局から「南会津地方の農地の現状につ



いて」と題し報告がありました。引き続き、宇都宮大学農学部教授 守友裕一氏より「むらの元気をどう生み出すか…遊休農地の活性からむらの活性化へ…」を演題とする講演が行われました。

昼食には、御蔵入そばの会の協力により、遊休農地再生による地元産そば粉100%と会津地鶏を使った地鶏そばの試食会を実施しました。

午後の部は郡山女子大学短期大学部教授 近藤榮昭氏より「そばを食生活に生かすために」を演題とする講話、引き続き守友先生(前出)をコーディネーターに、近藤先生(前出)を助言者、当地方をリードしている方々「下郷町大規模生産者 星忠勝氏・(有)F・Kファーム 羽田正氏・(株)奈良屋 猪股裕一氏・南会津地方遊休農地活用推進会議 小山喜男氏」をパネリストに「遊休農地を活用した日本一のそば産地を目指して」をテーマとした意見交換会を実施しました。

遊休農地が全国最大の本県で、そば栽培面積が約400ha(主に遊休農地活用)の南会津地方から遊休農地活用の全県的な機運を高めていこうと開催された本大会でしたが、それぞれの専門家の方々から「南会津のそば」のブランド化、販売戦略などそば産業の方向性についての貴重なご意見があり、第一次・第二次・第三次産業それぞれの段階での研究努力と各産業間連携による産地づくり・地域づくりの重要性を実感した大会でした。(農業振興部)

南会津の郷土料理づくりに挑戦!!

去る11月18日に、南会津郡内の親子など約40名の参加のもと、御蔵入交流館にて、「第2回豊かな食生活体験学習会&県民カレッジ夢まなびとオリオン講座」(以下「学習会」という。)を開催しました。



この学習会は、南会津郡内に伝わる郷土料理などの体験や学習を通じて、「食」や「農業」についての理解促進や地産地消を推進するとともに、豊かな食生活を促進

することを目的として、南会津農林事務所及び南会津教育事務所が共催により開催したものです。

当日は、元田島町食生活改善推進員会長の馬場イネ子さんやNPO法人はいっとの方々を講師として、参加者全員で「つと豆腐」「煮しめ」「くじら汁」「きのこご飯」の4品目を調理体験・試食しました。参加者は特に、つと豆腐づくりを初めて体験した方が多く、大変勉強になったとの感想が多数あり、一日楽しい学習会となりました。

近年食生活の乱れが問題となるなか、この学習会をきっかけとして、豊かな食生活を実践していきたいですね。(地域農林企画室)

経営体基盤整備事業

塩ノ原地区権利者会議を開催!!

去る11月21日、南会津町舘岩会館において、経営体育成基盤整備事業塩ノ原地区の総仕上げとなる権利者会議を開催しました。

当事業は平成11年度に県営ほ場整備事業(担い手育成型)として採択され、ほ場、用排水路および農道などの農業経営基盤の整備を進めて参りましたが、本年度に完了する運びとなりました。

会議では、農業基盤整備後の土地について所有権等の権利を定める塩ノ原地区換地計画について審議しました。当計画は受益者の方々の協力を得ながら、地元役員が中心となっておりまとめたもので、採決の結果、原案どおり当計画が決定いたしました。



近年、農業を取り巻く環境は厳しく、多くの課題に直面しております。当事業の完了により、土地生産性の向上、担い手への農地利用集積および集落営農など効率的な営農が進展し、地域の将来に向けた新しい農業と農村づくりの発展が期待されます。

(農村整備部)

「米の消費拡大」をPR!!

去る10月28日、南会津町の御蔵入りの里「会津山村道場」で開催された「南会津町会津たじま健康ウォーク」で、「米の消費拡大」及び「地産地消強化期間」の啓発活動を実施しました。



当日は、家族連れ約550名の参加があり、ライシーホワイト、農林事務所職員により、「新米地元産(ひとめぼれ)おにぎり」、「ごはんの日」のパンフレット等を配布しました。

参加者は、秋晴れの下、5kmコースと8kmコースに分かれ、紅葉の中散策をしゴールした後、「おにぎり」を手にし、疲れも癒された様子でした。

また、健康食コーナー、郷土料理コーナー、「子供歌舞伎上演」等もあり、県外からの参加者は、大変感激されていました。

今回のイベントをきっかけに、今後、益々「米の消費拡大」を期待いたします。

(農業振興部)

アクの弱いワラビ栽培講習会を開催!!

去る11月9日、南会津町の藤生地区においてワラビの栽培講習会を開催しました。

藤生地区住民で組織する藤生わらび生産組合は、観光わらび山を運営するとともに、平成15年から県林業研究センターで選抜した「アクの弱いワラビ」の栽培に取り組み、根株養生畑を造成して根株の増殖を図っています。



今回の講習会は「アクの弱いワラビ」の栽培に実際に取り組みもうとしている組合員への技術の普及を目的に開催し、組合員15名の参加がありました。

初めに農林事務所担当職員がワラビ根株の特徴及び選別、植栽方法について説明を行い、その後、参加者全員で養生畑の一部を掘り起こし、来春発生する芽の付いたワラビ根株約3,600株を採取しました。講習会后、参加者で根株が分配され、後日各々が準備した畑に植栽が行われました。

今後は栽培技術の定着化を図るとともに、「アクの弱いワラビ」の特徴を活かした販売方法等を検討していきたいと思ひます。

(森林林業部)

この人を知りたい

館岩村そして南会津町の 農村振興のために

(南会津町館岩 星 安晴さん)

去る7月10日に開催されました福島県農村振興技術連盟総会において、長年、農村の振興に尽くされた功績により表彰を受けられました、南会津町館岩総合支所長の星安晴さんをご紹介します。

星さんは、昭和57年5月館岩村への奉職以来、振興課・企画観光課・農林建設課長を歴任し、平成18年3月20日の町村合併時からは南会津町館岩総合支所長として、支所と本庁間における各種業務の連絡調整や支所業務の円滑な執行に、総合支所の責任者として奔走されています。



星 安晴さん

大学卒業から旧館岩村役場への採用までのあいだは建設会社である“株式会社 銭高組”に就職されていた

ということもあり、“その道のプロ”という立場で各種土木建設事業の推進に果たされた役割には大きなものがあります。

農業農村整備事業に関しては、平成5年4月から振興課長として、旧館岩村で初めての県営ほ場整備事業上郷地区の着工のため、受益者への事業説明や意見の聞き取り、関係機関との事業着工に向けての協議調整などに精力的に取り組まれました。また、当時の館岩村には無かった県営ほ場整備事業実施の推進母体となる『館岩村土地改良区』の設立の際には、受益者への説明や関係機関との協議調整などに苦労されましたが、その後における旧館岩村のほ場整備事業の円滑な事業推進に繋がるものとなり、受益者からも感謝されています。

また、中山間地域総合整備事業館岩地区の実施に当たっては、豊富な土木建設事業の経験を生かし、懸案であった用地取得困難箇所の解消にも積極的に取り組まれるなど、農業農村整備事業推進のため大きな貢献をしてこられました。

これまで、旧館岩村の農業農村整備事業の推進をとおして、地域農業の発展と地域住民の生活条件の向上に貢献していただきました。これからも、町村合併というなかで旧4町村の均衡ある発展のため、今まで培ってこられた農業農村整備事業の経験をもとに、新生南会津町の農業農村の振興のために、さらにご活躍をいただきたいと思ひます。

(農村整備部)

去る11月22日に、各町役場、各町農業委員会、JA本店・支店、南会津農林事務所の集落営農推進担当者による会議を開催し、平成18年度の上半期の中間検討と冬期間の推進について協議しました。

協議に先立ち、福島県農林水産部経営支援領域の榎本優総括参事より、国・県でのこれまでの取り組み経過を踏まえ、中山間地域である南会津地域にとって集落営農が重要課題であること、併せて一層の園芸振興の必要があることなど、南会津農業への期待を込めたあいさつがありました。

協議のなかでは、これまでの成果や推進上の課題について整理しながら、積極的な意見交換がなされました。本年の10月末までに、管内の15集落において営農改善組合(農用地利用改善団体)を設立し、『集落の農地を守り、集落の力を活かした取



り組み』が始まっていることが報告されました。また、現在も営農改善組合の設立に向けた話し合いが10数集落で行われており、今後とも

継続して関係機関一体となり支援していくことを確認しました。

これから雪の舞う季節です。集落の皆さんでストーブを囲み談(暖)をとることから始めてみませんか。

集落営農に関することは、役場、JA、農林事務所へお問い合わせください。

(農業普及部)

今月のコラム

南会津地方はいいところがいっぱい!

世の中、ちょい悪オヤジが流行している。

普段はスーツ姿の中高齢者が、休日に皮ジャンを来てバイクに乗っている姿が「ちょい悪オヤジ」の代表であろう。

私は、アフターファイブに街中に出て、それなりの格好(スーツでない服装?)で、居酒屋へ行き、酒やたばこを嗜めばこれも該当すると思っている。私の場合は、孫を溺愛するので「ちょい悪ジジ」である。(妻と嫁いだ娘が言ってる。)共通することは、普通の生活から一歩外に出るという積極的な行動であろう。

さて、今年4月に50代半ばで初めての南会津町で、单身暮らしとなった。

4月に町内会の班長さんに勧められ、大町壮年ソフトボールの会員になった。前期大会はBリーグ優勝、後期大会はAリーグ準優勝と好成績を納めた。早朝の朝露と爽やかな空気の中で、汗を流すのは気持ちが良いし、帰宅後ユニフォームの洗濯と体をシャワーして、さっぱりした気持ちで出勤できた。おかげで今も5時半起床である。

話は変わるが、当事務所に「南会津を楽しむ会」がある。私は「蒲生岳登山」、「燧ヶ岳登山と尾瀬ヶ原散策」に参加し、すばらしい景色を堪能した。

また、妻とは「田島祇園祭」を朝から晩まで見て、「前ぶれ」や「子供歌舞伎」に感動したり、「檜枝岐歌舞伎、駒止湿原、宮床湿原の散策」、「会津駒ヶ岳の登山」と3回ほど当地方でデートした。やっぱり安心できるパートナーだと再認識したし、日本100名山の2つを制覇した。

短期間にこんなに経験できたのは、自らが一歩前に出るにあたって、周囲にすばらしい人々がいて、勧めてくれたり、支えてくれたおかげである。その都度、色々なことを学んだ。

学んだ事柄らをもう一つ記述する。

それは、夏の鮎釣りである。ここの鮎は全部が放流で、仲がとっても良い。(罎を追わない)鮎の気持ちになってみると、腹一杯食べれる餌場を探して上流または下流に集団で行動をする。糸を緩めて罎(おとり鮎)を送り出し、泳がせるのに徹したが、釣果は上がらなかった。来年リベンジである。

これから雪と付き合う季節である。「ちょい悪ジジ」としては、どう楽しく付き合うか思案中である。

(企画部地域農林企画室長 稲留薫)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。